

——人権作文より——

夏休み課題の「人権作文」にてについては、みなさんさまざまなテーマで真剣に書いてくれていて、本当に素晴らしい内容がたくさんありました。今日は、その中から、「自分ごと」としての作品を紹介します。

「私とみんなのLGBTQ」 女子

初めに、LGBTQとは、いろいろな性別の頭文字をとった名称です。

私は、女の子も男の子も両方好きになります。私の「好き」は、二次元でも三次元でも、かわいい、かっこいい、と思う「直観」で、性的感情は関係ないと思っています。今は身体（からだ）の性別も性自認は女ですが、性自認に関しては中学1年までは男だと認識していました。でも、私の性自認を打ち明けると、変に思う人、否定する人が多いことが分かりました。その時とても悲しかったし、みんなと違うことがそんなにも否定されることなのかと思いました。

中学に入ってから、「身体の性別も性自認も女の子」に恋をしました。そしてそれを隠すために男の子と付き合いしました。その女の子に好きな人がいたし、私の好意に気付いていなかったからというのがあります。それでも、その女の子が私の告白を気持ち悪がらずに聞いてくれたことは嬉しかったです。それから、「身体の性別も性自認も男の子」にも恋しました。その恋は実り、くっついたり離れたりを繰り返しながら長く続きましたが、いろいろな感情が混ざって少し複雑でした。

中学3年の終盤は、「身体の性別は女の子、性自認は中性」の、年下の子と仲良くなり、告白しました。その子には好きな人がいたので実りませんでした。とても楽しい期間でした。

いろいろなことがありましたが、私は決心し、母に自分のことを告白しました。母に『女の子も好きなんだよ』と言った時点で・・・分かりました。「あ、だめだったか。」母は何に対しても寛容だったのでLGBTQに対しても理解があると思っていました。しかし、深くは言われませんでした。否定のまなざし。私は「人には言わないでおこう」と決め、傷ついた心ごと鍵をかけました。

私の性（性認識）と周りの子の性が違うことは、ちゃんと認識しています。でも、打ち明けたら否定される、友達がなくなるんじゃないかと思いました。私のように思っている子を、ネットでも現実でも見てきました。ちょっと生まれてきた性別が、思ってたのとは違っただけなんです。でも、ネットでは不特定多数の人に、現実では仲がいい人に、打ち明けると否定される・・・

私は今の性自認は女だと思っていますが、正直分かりません。今も、「男に生まれていたら、私の思う、最高に幸せで何も気にせずに女の子を好きになれる世界なんだろう。女に生まれたから、女の子を好きでも隠さなきゃいけないんだろう。」と思うことがあります。一人称についてもずっと「私」という言葉を使ってきて、それが定着しています。それは、私が女に生まれてきたから、仕方がないと思ったから。

私、僕、俺、ほかにもいろいろな一人称で自分を呼ぶ人がいます。見た目の性と違っていても、否定しないでほしい。相手をよく見て、自分語りや生き宴を聞いて、理解してほしい。自分の言動で傷つけてしまっているかもしれないという意識を持ってほしい。もしかしたら、自分の子が性別に違和感を持っているかもしれないと考えてほしい。私みたいに諦めてほしくないから。どうか、「いつか変わるだろう」という希望的観測を抱くだけで終わらせないでほしい、そう思います。

.....感じたことや感想を書いてみましょう.....

年 組 番()